

岩木健診 22年日スタート



クラシエのブースで毛細血管測定を行う受診者

弘大、市など 企業の測定や調査も

弘 前

弘前大学と弘前市、県総合健診センターは30日、弘前市の中央公民館岩木館などで、約3千項目に及ぶ市民の健診データを集めて健康づくりに役立てる「岩木健康増進プロジェクト健診」を始めた。今年で22年目を迎え、6月8日まで行う。

18歳以上の市民を対象に、今年は1300人以上が受診予定で、この日は126人が受診。受診者は4〜5時間かけて64の測定項目を回り、内科診察や採血を受けた。

企業による味覚検査や骨密度測定なども行われ、ク

ラシエは指先の毛細血管から冷え症や生活習慣などを測定。森永製菓はブース内で実際ににおにぎりやゼリーを食べてもらうことで満腹感などを評価する調査を実施した。

今年で5回目の受診という会社員の前田知之さん(47)は「(岩木健診は)体力測定があるから、自分がどのくらい衰えているか分かりやすく、健康維持につながっている」と話した。

弘前大学副学長の村下公一教授は「岩木健診で集まったデータから住民の皆さんの健康づくりに役立つ研究成果を発信し、短命県返上とウェルビーイング(心身の健康や社会全体の幸福)の向上につなげていきたい」と語った。

(佐々木志帆)